

立ち読み版



株式会社TKC 代表取締役
「天才キッズクラブ」理事長

たなか こうたろう

田中 孝太郎 さん

1958年、長野県生まれ。不動産会社勤務を経て、1991年に独立、不動産、アパレル会社を起業。2009年に株式会社TKCを設立、翌2010年に保育園「天才キッズクラブ」を開園する。著書に『やらせない、教えない、無理強いしない天才キッズクラブ式「最高の教育」』（きずな出版）。

【写真】安岡 嘉

子どもたちの才能を引き出す “奇跡の保育園”

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、株式会社スマートバリュー（東証一部上場）社外取締役、キャリアコンサルタント協議会常務理事・事務局長、高知大学客員教授・経営協議会委員、成城大学非常勤講師、中小企業診断士、早稲田大学卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材ソーシャルビジネスを展開。著書「定年後の仕事は40代で決めなさい」（徳間書店）、「インタビューの教科書」（同友館）など多数。

HARA'S BEFORE

子どもの才能を最大限引き出す“奇跡の保育園”として注目を集めている「天才キッズクラブ」。「英語の単語やフレーズもしっかり覚えている」、「漢字も四文字熟語もスラスラ読める」、「逆立ちで40メートル歩く」など、子どもたちの姿には目を見張る。

この保育園を立ち上げた田中さんは、かつて経営していたアパレル会社が倒産した経験を持つ。教育者と経営者の視点を兼ね備えている田中さんに、子どもの教育に懸ける思いをたずねた。

「やらせない・教えない・無理強いしない」

原：独自のメソッドで子どもたちを伸ばしているそうですね。

田中：子どもはみんな天から授かった、素晴らしい才能を持っています。子どもたちの才能を潜在能力も含めて引き出していきたいと思い、「天才キッズクラブ」を創設しました。2010年に園児8名の無認可保育園から始まりましたが、今は東京・神奈川を中心に、17の保育園に加え学童クラブ・課外教室も展開するまでになりました。「やらせない、教えない、無理強いしない」をモットーに、1人ひとりの個性や才能を伸ばす教育を行っています。

スパルタ式教育も子どもたちの能力を最大限引き出せるのではないかと注目された時期もありましたが、一時期は伸びても結果的に伸びなくなり、自己肯定感の低い子どもが多くなってしまいました。今の日本の教育に欠けているのは、子どもたち1人ひとりの「自己肯定感」と「生きる力」だと思うのです。子どもたちが心からやりたいことではなく、大人から求められることをやらされて育ってきているからです。

原：スパルタ式教育では、子どもたちの才能を伸

ばすのに限界があるということですか。

田中：わが子にスポーツを習わせていたことがありました。最初は子どものためだったはずが、いつのまにか私のほうが勝つことに執着してしまい、強くなるために無理に練習をさせていたんです。大人が無理強いをするのは、絶対にやってはいけないことです。子どもたちの瞳が輝いていることが一番大事なのです。

大切なのは、子どもが自分で学びたくなる、チャレンジしたくなる環境づくりです。私たちはそのために、たくさんの言葉を子どもたちに聞かせています。語彙力が伸びると、自分で考え、理解し、判断する力が身につく、同時に知的好奇心も伸びていきます。天才キッズクラブでは、子どもたちは1人で年間300~400冊の絵本を読みます。中には4歳で1,000冊読んだ子もいます。子どもの頃に身についた読書習慣は一生、続きます。

原：見学者もずいぶん多いと伺いました。

田中：年間1,000人ほどいらっしゃいます。入園を希望する親御さんだけでなく、保育士の方や保育園を始めようとしている方、企業研修を行っている方などです。子どもたちは「お客さんが来るのが当たり前」という環境に馴染んでいるので、いつもどおり伸び伸びと遊んでいます。保育園のうちから大勢の人の前に出て、自